

## 発刊のことば

松本歯科大学長 北村 勝 衛

大学が学会をもつことは当然である。わが松本歯科大学は、昭和47年4月から学生を募集した新設の大学である。開学草創から、本学の学会をもつことは理想的であるとは考えていたが、直ちにこれをもつことは、色々な事情から大へん困難であった。学会は漸進的にこれを計画して行くのがよいと考え、先づ47年12月から学内学術講演会の発足を企画し、毎月各教室の分担で数人の演者を選び、これを実施することとした。幸いに各員の協力のもとに順調にこれを行なうことができた。

さらに48年12月からは、学内研究発表会の名称で、これを継続して今日におよんでいる。この経過をみると、おいおい学会の形式をおびてきて、その内容においても、新しい研究業績を発表するようになってきた。

最近、この辺で、本学の学会を作るべきではないかという考えが、猛烈に起ってきた。只今ではもっぱらこの方針で行くことに大学を挙げて賛成し、大きな期待のもとに、発起計画の委員をあげて、積極的に学会を作ることとなっている。

さて学会があれば、会誌をもつことが必要である。昭和48年の始めから、前述の学術講演会または研究発表会において発表した、演題、その内容などの記録物を作っておく必要を痛感し、これまた、実行委員をあげて計画中であったが、漸くその機が熟して、ここに、その第1号を作成することとなった。勿論これは学術雑誌へ移行させる考えで行われるもので、学会の結成、学会誌の発行が決定すれば当然それに移っていくものであると考えている。

この松本歯科大学研究会誌（昭和47、48年度）は学術講演会および研究発表会時代の記録である。学会誌ができるまでの記録を空白にしないという意図によって作られるものである。

信州の山々に囲まれた、景勝の地塩尻市に偉容を誇るわが松本歯科大学も、開学以来順調な歩みを続けているが、さらにこれが、時間の経過とともに、その設備も、その内容も大学の大きな努力によって、益々拡充して行くものと信じている。計画中の本大学学会もまた、教授陣の非凡な努力によって、立派に成長して行くことを信じて疑わない。

この小冊子の発刊にあたり、その経過、性格の大略を記し、さらに将来への期待を披瀝しておくこととする。

なお、本誌の作成を担当した教授諸彦の労に感謝する。